

会報

第307号

岩手県小学校長会
代表 佐藤卓
事務局 TEL.019(623)8955
盛岡市紺屋町2の9
盛岡市勤労福祉会館2F
印刷 富士屋印刷所



この一年を振り返って

会長 佐藤卓

「令和」という新しい時代を迎えた今年度も、残すところあとわずかとなりました。各学校ではこれまでの学校経営を振り返り、子どもたち一人一人の成長した姿に教育営為の成果や手ごたえを感じていることと思います。

岩手県小学校長会のこの一年を振り返ってみますと、四月十九日の第五十七回定期総会からスタートしました。会員の総意として「明日を拓く岩手の絆」をしっかりと心に刻み岩手の復興教育を推進するとともに、子どもたちの笑顔と輝く未来を願い、校長会の組織を機能させ、情報共有と連携を深めることを確かめました。

六、七月には、東日本大震

災被災地訪問として、気仙小
学校、吉里吉里小学校、鉾ヶ
崎小学校を視察させていただきました。大震災から九年となり、被災校舎の改修・新築が完了し学習環境が大きく改善されたものの、発災当時、胎児や乳幼児だった子どものケアの必要性や、保護者のストレスに伴う子育ての困難さが目立ってきています。このような状況や学校の困り感をお伺いし、全連小被災三県校長会合同連絡会や理事会において説明し、支援をお願いしております。

八月には、岩手県教育委員会との教育懇談会を行い、学
力向上、生徒指導、復興教育、
人事関連について情報交換を
行いました。

九月には、令和二年度岩手
県小・中学校長研究大会花巻
大会の構想について協議しま
した。花巻地区校長会の皆様
に周到な準備をいただいでい
ることに心から感謝申し上げ
ます。

十月十七日、全国連合小
学校長会研究協議会秋田大
会（兼東北連小秋田大会）が
行われ、岩手県からは八十名
が参加しました。分科会では、
宮古地区小川小学校の土
井祐之先生に学校経営につい
て、岩手地区御明神小学校の
高橋正好先生にキャリア教育
についてご発表をいただきました。
工夫された確かな実践
が光る素晴らしい発表でし
た。大変ありがとうございました。

「東北は一つ」の合言葉の
もと、今大会では岩手県とし
て秋田県校長会の運営に協力
する意味から、岩手県団とし
てバスをチャーターし参加し
ました。県団バス参加会員か
らは、移動がスムーズでしか
も県団としての一体感があ
り、非常に良かったという評
価をいただきました。岩手県
会員の皆様のご協力と秋田県
校長会の皆様の細やかで温か
なおもてなしに深謝いたしま

す。

秋田大会を前後して、本県
は台風十九号や豪雨による甚
大な被害を受けました。小学
校長会として、翌週に沿岸部
を回り被害の実情を把握し、
床上浸水の被害を受けた久
慈、宮古、釜石地区の三校に
お見舞いをさせていただきま
した。一日も早い復興を心か
ら願っております。

運営面では、業務改善とし
てメールでの文書配信を開始
しました。これにより、全連
小等からの最新情報や資料を
迅速に会員の皆様に送ること
ができるようになりました。
今年、各地区理事、各部署
員、会員の皆様のご尽力によ
り、会員の願いや心一つに
した取組がなされたと思っ
ております。心から御礼を申し
上げます。

令和二年度は新学習指導要
領が完全実施され、大きな変
革期を迎えます。

私たち岩手県小学校長会
は、子どもたちの笑顔と輝く
未来のため、会員の英知と情
熱を結集するとともに、責任
と覚悟をもって連携協力し合
い、岩手の絆のもと前へ前へ
と歩んで参りましょう。

祝 文部科学大臣表彰

岩手県小学校長会長

佐藤卓 氏

文部科学省による令和元
年度教育者表彰式が、一月
二十八日、日本消防会館にお
いて行われました。

本県小学校からは、岩手県小
学校長会・佐藤卓会長（盛岡
市立仙北小学校長）が、「長年
にわたり、学校を主体とした
教育施策の推進や教職員の指
導力向上などに取り組み、本
県の教育振興に貢献している」
として表彰を受けられました。

当日は、午前十一時二十分
から表彰式が挙行され、亀岡
文部科学副大臣からの挨拶の
あと、表彰状が授与されまし
た。

その後、皇居に参内し、「春
秋の間」において、天皇皇后
両陛下に拝謁してお言葉を賜
りました。

佐藤会長は、今回の受賞に
ついて「この表彰は、岩手県
の教育関係者全体に対する表
彰であり、岩手県のすべての
小学校長がよい学校経営を
行っているということへの表
彰です。代表して受賞させて
いただきました。」と、話さ
れています。

会員一同、心からの祝意を
表したいと思えます。誠に
おめでとうございます。

令和元年度 各部の活動報告

総務部

総務部は、本会全般に関わる企画・立案及び庶務に関する活動、東日本大震災対策活動を行ってきた。

一 総務部担当活動

①理事会・評議員会

○第一回理事会・評議員会

(四月十九日)

・本年度の組織構成等の確認
(全連小・東北連小役員、理事の専門部所属確認、各部及び専門委員会の構成と活動計画の確認)

○第二回理事会 (六月十日)

・第五十七回総会の反省

・全連小・東北連小理事会報告、全連小研究協議会秋田大会について

○第三回理事会 (九月十三日)

・全連小会長会、東北連小理事会報告、被災地訪問報告、県教委との教育懇談会報告
・第五十七回岩手県小中学校長研究大会花巻大会について

○第四回理事会・第二回評議員会

(十一月八日)

・全連小理事会、対策・調査研究担当者連絡協議会報告
・東北連小対策・教育課程委員

会報告

・東京電力福島第一原子力発電所・被災校等視察報告

・全連小研究協議会秋田大会の反省

・令和元年度岩手県教育委員会への要望事項について
・台風十九号被害地区視察報告

○第五回理事会・第三回評議員会

(二月二十一日)

・全連小理事会、東北連小理事会報告

・令和元年度岩手県小学校長収入・支出決算(中間)報告
・令和二年度行事予定

○第一回総務部担当理事・地区事務局長合同会議

(四月十九日)

・本年度の組織構成
・全連小大会・東北連小大会
○第二回総務部担当理事・地区事務局長合同会議

(一月二十四日)

・本会会務、中間決算報告
・令和二年度行事予定

・令和二年度総会開催関係依頼事項の伝達
・各地区校長会の活動状況について交流

○常任理事会

今年度の活動方針と計画に基づき、年間十一回開催し、総

務、行財政、研修、広報編集、生徒指導の各部の活動状況を共有してきた。

二 東日本大震災対策活動

①東日本大震災対策特別委員会の開催

○第一回 (六月十日)

・平成三十年度東日本大震災対策活動について報告
・令和元年度東日本大震災対策特別委員会の計画

・被災地区校長会訪問の計画
・被災地区小学校の現状と課題について情報共有

○第二回 (十一月八日)

・盛岡市立本宮小学校古玉忠昭校長による復興・防災に関する講演会

○第三回 (二月二十一日)

・各地区の状況と今後の支援・被災地区校長会訪問の計画
○東日本大震災対策本部の活動
・被災地区小学校の状況と横軸姉妹校連携による支援活動の状況について情報共有

○被災地区訪問

○全連小理事会での本県被災地状況の説明

(総務部長 太田 勝浩)

行財政部

教育諸条件に関する実態把握と要望事項について委員の意見を集約し、その調査結果をもと

に、県中学校長会と共同で県教育委員会に要望活動を行った。

一 行財政関係調査

①県調査

「校長の給与等の実態」「教職員の病休者と補充状況」「人事、給与、研修等要望事項に関すること」「教材予算に関すること」「その他」について実施。

②全連小調査

「標準法」「施設設備教材等」「教員養成」等についての調査へ回答。

二 要望(提言)活動

①要望書の提出

会員からの調査結果をもとに「本県義務教育の充実振興について」をまとめ、県教育委員会へ提出。(十一月二十日)

②教育懇談会

県教育委員会と県中学校長会と合同で「学校における働き方改革の推進」「学力向上推進に係る施策」「復興教育の推進」「生徒指導上の諸課題」について意見交換。(八月二十六日)

三 全連小対策委員会

「学校における働き方改革の進捗状況」と「専科等の教員の配置状況」について、各県で作成した資料をもとに情報交換と協議。

四 東北連小対策委員会

「今年度の対策活動や要望活動の取組状況」「震災復興及び

防災に係る人的配置、施設・設備、教材等の整備状況」について協議し情報を交流。

また、研修会では「学校における教員の働き方改革への取組状況」「数年後に退職者が急増する状況を踏まえた対応」について意見交流。

五 活動報告書

令和元年度行財政対策委員会活動報告書を作成。
(行財政部長 古玉 忠昭)

研修部

研修部は、学校経営の充実に寄与するため、教育課題に対する調査研究並びに各研究大会等に関する次のような活動を行ってきた。

一 会議の開催

・地区研修担当者会議 二回
・調査研究特別委員会 二回
・調査研究委員会 十回

二 調査研究活動

①岩手県小学校長会関係

「ふるさとを愛し 共に支え合いながら未来を拓く子どもを育てる岩手の学校教育」業務の改善による教育の質の向上を図る学校経営の推進」を新しい研究テーマとして、調査研究活動を行った。調査は、「学校規模と教員の状況」「教員の働き方の現状と課題」「業務改善・

見直しの取組と効果について」の三項目についてアンケートを作成して実施した。

本年度は、調査結果のまとめを行い、来年度は、調査結果に分析・考察を加え、岩手県小・中学校長研究大会花巻大会で、研究発表する予定になっている。

②全国連合小学校長会関係
全連小の計画により、抽出校に依頼し、調査を実施した。

三 研究大会

①第七十一回全国連合小学校長会研究協議会秋田大会（第五十九回東北連合小学校長会研究協議会秋田大会 十月十七日～十八日）が、研究主題「新たな地を拓き 人間性豊かな社会を築く 日本人の育成を目指す 小学校教育の推進」をテーマに秋田市で開催され、岩手県からは七十九名が参加して、研修を深めることができた。

シンポジウムでは、「自ら新しい社会を切り拓いていくことどもたちへ」をテーマに「ふるさと」「志」「未来創造」の観点から三名のシンポジストの提言があった。現在の教育課題に照らし、学校経営について深く考える機会を与えていただいた。また、研究協議においては、「組織・運営」分科会で宮古地区校長会が、「社会形成能力」分科会で岩手地区校長会がそれぞれ

発表を行った。

②来年度開催される岩手県小・中学校長研究大会花巻大会について、九月二日に打合せ会を開催した。研究主題や期日、会場等について協議を行った。（研修部長 久保 智克）

広報・編集部

教育情報の提供並びに会報・会誌の編集、発行に関する活動を行ってきた。

一 「会報」の発行

- ①第三百五号
 - ・ 県小学校長会総会特集
 - ・ 地区校長会研究交流（宮古）
 - ・ 東日本大震災からの復興（一関）
 - ・ 役員等紹介 他
- ②第三百六号
 - ・ 全連小・東北連小秋田大会報告

- ・ 地区校長会研究交流（盛岡）
- ・ 東日本大震災からの復興（胆江） 他
- ③第三百七号
 - ・ 各部活動報告
 - ・ 地区校長会研究交流（和賀）
 - ・ 東日本大震災からの復興（花巻・県小学校長会）
 - ・ 来年度関係事業 他

二 会誌「北奥」五十七号の発行

各地区から四十五名の会員に、随筆・創作、教育実践、小論・提言、特集論文、復興の足跡（写真）の五部門に執筆していただいた。表紙絵や挿絵も協力を得て計画通りに発行した。

三 全連小「教育研究シリーズ」購読の推奨

県内全校購読の推奨

四 全連小「全国特色ある研究校便覧」の推薦執筆依頼

- ・ 盛岡市立厨川小【外国語科】
- ・ 奥州市立人首小【生活科・総合的な学習】
- ・ 一関市立中里小【算数科】
- ・ 陸前高田市立横田小

- 【国語科】
- ・ 洋野町立中野小学校
- 【地域社会の特色を生かした海洋教育】
- ・ 九戸村立長興寺小

五 「小学校時報」への執筆

- ①六月号
 - ・ 石橋多賀子校長（飯岡小）
- ②八月号
 - ・ 今野洋明校長（滝沢東小）
- ③十月号
 - ・ 小笠原安和校長（煙山小）
- ④一月号
 - ・ 阿部俊夫台長
 - （ひろのまきば天文台）
- ⑤三月号
 - ・ 仁昌寺真一校長（仁王小）

六 全連小ホームページ「学校紹介コーナー」への推薦

釜石市立鶴住居小を推薦

七 全連小ホームページ「特色ある学校」の推薦

県内五校を更新

八 諸会議の開催

広報・編集専門委員会四回、担当理事・地区広報担当者・専門委員の合同会議を二回開催した。（広報・編集部長 石橋多賀子）

生徒指導部

生徒指導の諸問題にかかる調査を実施すると共に、児童の健全育成を図るために、各地区小学校長会や県中学校長会と連携し、次の活動を行った。

一 会議の開催

- ①生徒指導担当理事・専門委員・地区生徒指導担当者合同会議
- 第一回 四月十九日（金）
- ・ 年間活動計画の作成
- ・ 各地区状況の情報交換
- 第二回 九月十日（火）
- ・ 調査結果の分析・考察

- ②小・中生徒指導情報交換会
- 九月十日（火）午後
- ・ 小・中調査結果の中間発表
- ・ 協議「生徒指導上の諸問題（携帯・スマホの学校持ち込み等）にかかる取組と小中学校の連携」

- ③調査内容
 - 調査1「はじめ」
 - 調査2「不登校」
 - 調査3「少年非行」
 - 調査4「学級経営上の諸問題」
 - 調査5「情報化」
 - 調査6「児童虐待」
 - 調査7「震災の影響」
 - ④調査のまとめ
 - ・ 調査研究内容を報告書にまとめ、年度末に配付

- ・ 助言及び講話 県教育委員会 学校調整課首席指導主事 兼生徒指導課長
- ③生徒指導専門委員会（年五回）（専門委員五名を盛岡市小学校長会に委嘱）
- ・ メール送受信による調査方法の改善と実施
- ・ SNS・携帯・スマホの影響」にかかる調査内容の検討
- ・ 「震災の影響」に関するこの調査内容の検討
- ・ 調査結果の考察・分析
- ・ 調査結果のまとめ
- 二 調査研究活動
 - ①研究主題
 - 「生徒指導の諸問題にかかる調査研究」
 - ②調査方法
 - ・ 県内全小学校長を対象にアンケート調査を実施
 - ③調査内容
 - 調査1「はじめ」
 - 調査2「不登校」
 - 調査3「少年非行」
 - 調査4「学級経営上の諸問題」
 - 調査5「情報化」
 - 調査6「児童虐待」
 - 調査7「震災の影響」
 - ④調査のまとめ
 - ・ 調査研究内容を報告書にまとめ、年度末に配付

（生徒指導部長 中村 雅彦）

地区校長会研究交流

創意に満ちた特色ある 学校経営の充実をめざして

和賀地区校長会

一 はじめに

和賀地区には、北上市校長会、西和賀町校長会の二つの校長会の組織があります。令和元年度の学校数は、小学校が十九校、中学校が十一校で合わせて三十校です。しかし、学校の適正配置計画により、令和五年度には北上市の小学校が二校減少する予定です。また、当地区の校長会では、班別研修以外、小学校と中学校が一緒になって研修し、連携を密にするとともに、お互いの情報を交流し合い、児童生徒の健全な育成に努めています。

二 研修計画の概要

【研究推進方針】

二つの方針のもと、『全体研修』と『班別研修』の二つを柱にして研修を進めています。

① 社会の変化に関する課題の研修や学校経営実践交流を

通して、校長としての識見・力量を高める。

② 岩手県小・中学校長会研究主題に即して研究を深める。

【全体研修】

年二回（県大会開催の年には三回）開催しています。

一回目は、事務所長さんより「当面の教育課題について」の講話、教務課長さんより「コンプライアンスや働き方改革等」の行政説明をいただいています。

二回目は、班別研修で進めてきた県（東北）大会の発表内容を交流し合い、研究を深めています。

【班別研修】

小学校部会を二つに分け、二点について、年三回（県大会開催の年には二回）研修しています。

① 県（東北）のテーマに沿って各分科会の研究主題を取

り組んでいます。

② 班別研修を行う会場校の学校経営説明と交流、全学級の授業参観を行っています。

【研究部会構成】

小学校は二部会、中学校は一部会構成で研究を推進しています。

◆一班（十校）

黒沢尻西小、立花小、飯豊小、二子小、口内小、照岡小、南小、和賀西小、笠松小、湯田小

◆二班（九校）

黒沢尻北小、黒沢尻東小、更木小、黒岩小、鬼柳小、江釣子小、いわさき小、和賀東小、沢内小

【研修推進日程】

① 全体研修
・ 五月八日（所長講話等）
・ 一月二十一日（地区校長会研究発表会）

② 班別研修
・ 六月十二日・九月十一日
・ 十一月十九日
・ 三回とも各班で設定した小学校会場にて

◆ 二班（令和二年度県発表表）

◆ 一班（令和二年度県・東北発表表）

※三年次・二年目

「知性・創造性を育む教育課程の編成と校長の在り方」カリキュラム・マネジメントの視点をもとにしたプランニングシートの活用を通して

望ましい知性・創造性を育む教育課程を新学習指導要領及び各校の学校課題と関連させながら具体化するのための手立てや校長及び学校経営の在り方を究明する。そのために、知性・創造性と新学習指導要領の育成すべき資質・能力との関連を明らかにした。そして、知性・創造性を育む教育課程編成に向けて、①教育課程改善・充実②校内体制・地域連携の二つの視点からプランニングシートを作成し、児童の表現力の育成や学力向上をめざす等の実践をした。その結果、明確で焦点化され、組織的・協働的に推進する学校経営ビジョンを構築することができた。

◆二班（令和二年度県発表表）

※二年次・一年目
「生きる力を育てる環境教育の推進と校長の在り方」
多様な体験活動を通して環境に対する感受性を磨き、実践的な態度を育む環境教育を

組織的・計画的・継続的に推進するうえで課題を明らかにし、環境教育推進に果たすべき校長の役割と指導性を究明する。そのために、環境教育推進上の課題を把握するためにアンケートを実施した。その結果見えてきた課題から三つの視点（環境教育におけるカリキュラム・マネジメントの三つの側面）を定めた。

① 学校教育目標を踏まえ教科横断的な視点で教育課程を編成すること② 教育活動の質の向上のために PDCA サイクルを確立すること③ 実践を可能とする資源（人・物・金・時間・情報）を活用すること。それをもとに各校の実践・交流を継続中である。

四 おわりに

本研修会は、各校が抱えている課題や悩みを交流し、解決するとともに連帯意識を高める絶好の機会となっております。今後も和賀地区校長会ワゴンチームで研修を推進していきたいと考えています。

（北上市立南小学校

千葉 浩）

これからの復興教育を考える

一 八幡小の復興・防災教育
 昨年度の四月に、花巻市立八幡小学校に赴任しました。八幡小学校は私の前の校長二人が沿岸地区出身者であったこともあり、目で見て肌で触れる復興教育に特に力を入れていました。

具体的には、八幡地区のコミュニティ組織である「八幡まちづくり協議会」からの援助をいただき、宮古市の鉤ヶ崎小やたろう観光ホテルなどを訪問する被災地見学や八幡小から山田南小に赴任して被災した佐賀校長先生や三陸津波と東日本大震災津波の二つの津波被害に遭った荒谷アイさんなどの被災経験者を講師に迎えての講演会を毎年開催してきました。

震災後七年間、前任の校長たちの思いを受けて継続してきた取組ですが、近年全国的に起きていた台風や大雨洪水被害を受けて、この二年間は被災地の現状を理解するばかりではなく自分たちにも起こりうる災害や危険に対して当事者意識を高めることを視野に入れた防災教育へとシフトチェンジを行ってきました。

二 身近な危険に「そなえる」

八幡地区は石鳥谷町内を貫くように流れる北上川のすぐ西側に位置します。堤防が整備されていなかった時代には、台風や豪雨のたびに増水し、一部地域では床上や床下浸水での被害をくり返してきた歴史があります。

堤防の整備が進んだ現在では、北上川のすぐそばにあるニュータウンにも新築の家が立ち並び、そこから通学する児童も多くなりました。もちろん今は増水する心配はないのですが、八幡地区に住む子どもたちや保護者も過去に増水や洪水があったことは知っています。避難した経験をもっている人はほとんどいなくりました。



段ボールベッドの講習

しかし、八幡地区で一番起こりうる可能性がある災害が北上川の増水であることは明

確です。いくら堤防が整備されていても、近年の全国各地での洪水被害では、強固だったはずの堤防が決壊したことや被害が拡大した事例は枚挙に暇がありません。そこで、六年生を対象に過去二回の洪水を体験した地域の識者を招いての学習会を実施しました。平成十四年と平成十九年の二度にわたり台風や集中豪

2011.3.11
東日本大震災からの復興
 今日から明日へ 一歩ずつ
花巻地区

雨により北上川が氾濫して、見慣れた町が水没している写真を目の当たりにして、子どもたちの表情が変わりました。自分たちの想像以上に町が水没している姿は衝撃的だったようです。ニュースで見た他県の洪水被害と同じようなことが、見慣れた建物や風景の中で起きていることで、身近に起こる災害として

現実味を帯びて考える機会となりました。

また、二年前に八幡小学校の体育館が洪水時対応の緊急避難場所に指定され、たくさんの設備品が体育館に運び込まれました。花巻市のハザードマップにより、八幡小近くまで増水する可能性を受けての指定でした。このことを受けて、十一月の授業参観日には、避難所での生活については、避難所での生活については、花巻市の防災危機管理担当者に授業をしていただきました。授業の中では、段ボールベッドなどの組み立て方や非常食の試食なども参観した保護者と一緒に体験しました。自分たちの身近にも災害が起こる可能性があることを親子で実感できる取組になったと考えています。

三 学校運営協議会とともに

復興教育のねらいは「郷土を愛し、その復興・発展を支えるひとづくり」です。八幡小でも前述したような防災教育のほか、総合的な学習の時間（以下「総合」）で、鹿踊り、八幡カルタ、鮭の放流などの学習で八幡地区のよさや素晴らしさの理解を進めてきました。

しかし、震災津波から九年を経て、職員も入れ替わりが進みましたので、本校だけの

課題かも知れませんが、「総合」と復興・防災教育、他の教育活動一つ一つについて「何のために」「どのようにして」「どんな力を育てる」のかを再確認して、それぞれとの関連性や価値付けをもう一度ゼロベースから組み立て直していく必要を感じています。そして、その編成作業に大きな役割をもつと考えているのが、今、設置が進められている学校運営協議会です。

これまでは学校の一方的な思いや計画から協力を請い成り立させてきた学習活動について目的や方針、そして連携の計画を学校運営協議会で共有することで、地域住民が学校教育へ見通しをもちながら、より主体的に参加や協力することができると考えています。学校運営協議会の設置により、地域目線で連携・協働ができる新しい復興教育が始められると期待しています。

震災津波からまもなく節目の十年を迎えようとしているときに、学校運営協議会の設置が重なるのは、これからの復興教育の進展に深い意味があると考えています。

（花巻市立八幡小学校
 校長 佐々木 和彦）

県内被災地視察

岩手県小学校長会では、被災地の現状を把握し、復興の状況を伝えるために視察を行っている。今年度は、気仙・宮古・釜石の三地区を訪問した。

○気仙地区

陸前高田市立気仙小学校
気仙小学校の金野校長、地区理事の薄衣校長ほか、二名の校長が迎えてくださった。新築された校舎や校庭で、子どもたちは落ち着いて生活し、明るく伸び伸びと学習していた。



3～6年の合同授業「風のホール」にて

懇談の中では、復興はまだまだ途上であることが話された。中心市街地は未だ形成されていないこと、保護者の失

職等により子育てが困難な家庭があり、二次災害的な要因にもなっていること、被災した教職員へのメンタル面でのサポートが必要なことなどである。

○宮古地区

宮古市立鍛ヶ崎小学校
鍛ヶ崎小学校の林校長、伊茂野会長ほか、五名の校長と市教委の佐々木課長が参加してくださいました。



震災当時の新聞記事や写真が並ぶ「震災伝承室」

震災後、宮古地区の学校は十二校が閉校し、児童生徒数は千人以上が減少している。児童は、各教室において落ち着いて学習していたが、特別な支援や配慮が必要な児童は二十%を超える高い割合を示しているということであった。宮古地区においては、台

風十号の被害も大きく受けており、生活の再建、コミュニティの形成にも苦難を要する地区がある。国の施策では復興加配は減じる方向であるが、人的支援はまだまだ必要である。

○釜石地区

大槌町立吉里吉里小学校
吉里吉里小学校の今野校長、地区事務局長の菅原校長

2011.3.11
東日本大震災からの復興
今日から明日へ 一歩ずつ
県小学校長会の取り組み

ほか四名の校長が参加してくださった。

大槌町では、各学年で年三回の「心の授業」を行っているが、「心と体の健康観察」からは要サポートの率が高いことが分かっており、心のサポートのために、引き続き復興加配が必要な状況である。保護者の中に精神的に不安定な方がおり、児童の不安にも

つながっているとされる。教職員は、異動により大きく入れ替わっており、大槌町では四月初めに転入職員に向けて震災の内容も含めた研修を行っている。



屋上のプールで学習する高学年

東日本大震災 対策特別委員会

今年度二回目の委員会では、震災当時宮古市立愛宕小学校で校長として勤務された現盛岡市立本宮小学校の古玉忠昭校長より講演をいただいた。

震災時の津波や避難所となった学校の様子、子どもたち自身ができることを考え取り組んだ活動等について映像をおして伝えていただくとともに、今の小学生に何を伝えていくべきなのかを考えて授業した総合的な学習の単元

構想図や授業の実際、職員への校長通信等を、紙面をとおして伝えていただいた。復興教育推進のために校長が果たすべき役割を示してくださいました。大変貴重な講演であった。



愛宕小卒業式（自衛隊や消防の方々も祝福）

福島 の被災地 視察・懇談会

東京電力福島第一原子力発電所構内、津波で被災した浪江町立請戸小学校校長の視察、双葉地区の八地区校長会の方々との懇談に参加してきました。原発事故からの復興の困難さを実感した。同じ東北で多くの困難がありながらも、学校再開への高い志をもって学校経営にあたられていることを知り、伝え続けていくことの重要性を感じた。

令和2年度 第58回岩手県小学校長会定期総会

- 1 期日 令和2年4月17日(金)
- 2 会場 盛岡市都南文化会館(キャラホール)
- 3 日程

9:30	10:00	12:00	13:00	14:00	14:15	14:45	15:30
受付	総会1 開会 感謝状贈呈 祝辞 行政説明	昼食 12:05～ ・役員選考委員会 ・大会宣言起草委 員会	総会2 議長選出 報告・議事 新役員挨拶 閉会	移動	第1回理事・ 評議員合同会議 (顔合わせ、 確認事項等)	各部担当理事・ 地区事務局長・ 地区担当者・ 専門委員合同 会議	

14:30

第57回岩手県小・中学校長研究大会花巻大会

- 1 大会主題 「未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る子供を育てる岩手の教育」
- 2 研究主題 小学校:「ふるさとを愛し 共に支え合いながら未来を拓く子供を育てる学校経営の推進」
中学校:「新たな時代を切り拓き よりよい社会を創り出していく日本人を育てる岩手の中学校教育」
- 3 期日 令和2年10月9日(金)
- 4 会場 全体会・分科会:花巻温泉ホテル
- 5 大会日程

9:45	10:15	10:50	11:50	13:00	15:20	15:30
受付	開会行事	全体研究発表 (小・中研究発表)	昼食	分科会研究協議 (小・中別分科会)	閉会行事 (分科会毎)	

第60回東北連合小学校長会研究協議会宮城大会

- 1 研究主題 「新たな知を拓き 人間性豊かな社会を築く 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」
- 2 研究副主題 「夢と希望をもち 共に新しい未来を切り拓く子どもを育てる学校経営」
- 3 期日 令和2年7月2日(木)～3日(金)
- 4 会場 全体会 仙台市国際センター 会議棟 大ホール
分科会 仙台市国際センター 展示棟 会議室・展示室
- 5 大会日程

【1日目】7月2日(木)

8:30	9:00	11:00	12:40	13:20	14:30	16:20	16:50	17:30
受付	東北連小理事会 研修会	休憩・昼食	受付	開会行事・ 全体会	シンポジウム	閉会 行事	分科会 打合せ	

【2日目】7月3日(金)

8:30	9:00	12:00	13:00
受付	分科会 10会場	閉会 後片付け	

※分科会発表 「知性・創造性」視点① 和賀地区 「危機対応」視点① 胆江地区

第72回全国連合小学校長会研究協議会京都大会

- 1 研究主題 「自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」
- 2 副主題 「ふるさとの自然・歴史・文化を愛し 他者と協働しながら豊かな未来社会を創る子どもの育成」
- 3 期日 令和2年10月29日(木)～30日(金)
- 4 開催地 京都市
全体会場:京都市勧業館(みやこめっせ)
分科会会場:京都市勧業館(みやこめっせ)及びロームシアター京都
- 5 大会日程

【1日目】10月29日(木)

8:30	9:00	9:50	10:00	10:40	10:50	11:30	13:00	16:30
受付	開会式	休憩	文部科学省講話	休憩	全体会	昼食・移動	分科会	

【2日目】10月30日(金)

8:30	9:00	9:20	9:30	11:30	12:00
受付	全体会	休憩	シンポジウム	閉会式	

事務局日誌抄

- 11月12日 第7回調査研究委員会（盛岡市勤労福祉会館）
 15日 岩手県教職員表彰式（岩手県民会館）佐藤会長出席
 18日 全連小施設設備教材等委員会（東京・全連小事務局）中村部長出席
 20日 第2回広報・編集委員会（盛岡市勤労福祉会館）
 岩手県教育委員会へ要望書提出
 21日 第4回行財政対策委員会（盛岡市勤労福祉会館）
 22日 第18回岩手県中学校総合文化祭（岩手県民会館）佐藤会長出席
 25日 「いわて教育の日」のつどい（岩手県民会館）
- 12月1日 （一社）岩手県PTA連合会年次表彰式・祝賀会（ホテルメトロポリタン盛岡）佐藤会長出席
 4日 第8回調査研究委員会（盛岡市勤労福祉会館）
 10日 第5回行財政対策委員会（盛岡市勤労福祉会館）
 第8回常任理事会（校長会事務局）
 12日 第3回広報・編集委員会（盛岡市勤労福祉会館）
 20日 （公財）日本教育公務員弘済会岩手支部幹事会・運営委員会（サンセール盛岡）佐藤会長出席
- 1月14日 全連小基金管理運営委員会（東京・全連小事務局）仁昌寺副会長出席
 15日 岩手県教育振興運動55周年集約大会（いわて県民情報交流センター）佐藤会長、中村部長出席
 20日 第2回広報・編集部担当理事・地区担当者・専門委員合同会議（盛岡市勤労福祉会館）
 24日 第2回総務部担当理事・地区事務局長合同会議（盛岡市勤労福祉会館）
 27日 第2回研修部担当理事・地区研修担当者 第2回調査研究特別委員会・第9回調査研究委員会
 合同会議（盛岡市勤労福祉会館）
 29日 第9回常任理事会（校長会事務局）
- 2月5日 第2回行財政部担当理事・地区行財政担当者・対策委員合同会議（盛岡市勤労福祉会館）
 第10回調査研究委員会（盛岡市勤労福祉会館）
 第4回広報・編集委員会（盛岡市勤労福祉会館）
 第5回生徒指導委員会（盛岡市勤労福祉会館）
 7日 東北連小第3回理事会・研修会（秋田市・ホテルメトロポリタン秋田）佐藤会長、仁昌寺副会長出席
- 13～14日 全連小第234回理事会（東京・KKRホテル東京）佐藤会長、太田部長出席
 14日 岩手県教育振興基金第3回理事会（サンセール盛岡）仁昌寺副会長出席
 17日 第2回公立学校共済組合岩手支部運営審議会（サンセール盛岡）仁昌寺副会長出席
 19日 日本教育会岩手県支部理事会、評議員会（サンセール盛岡）佐藤会長、太田部長出席
 21日 第5回理事会・第3回評議員会合同会議（盛岡市勤労福祉会館）
 第3回東日本大震災対策特別委員会（盛岡市勤労福祉会館）
 28日 県立総合教育センター運営協議会（県立総合教育センター）仁昌寺副会長出席
- 3月3日 岩手県小学校長会会計監査（盛岡市勤労福祉会館）
 4日 第10回常任理事会（校長会事務局）
 5日 東北連合小学校長会会計監査会（秋田市・ホテルメトロポリタン秋田）石橋部長出席
 23日 第11回常任理事会（校長会事務局）

編集後記

高松の池の白鳥がはばたきをはじめ、北帰行の日が近いことを感じさせています。惜別の念と新しい希望が交錯する春の訪れとともに、今年度最終号をお届けいたします。

今号では、今年度の岩手県小学校長会の歩みを中心に紹介いたしました。そして、各地区の校長会研究交流、震災以来進めてきた復興教育についても掲載いたしました。これまでも、今号でも、震災からまもなく十年目を迎える今の、その学校や地域に応じた取組を紹介していただきました。また、本校長会で行っている被災地視察の様子、東日本大震災対策特別委員会の内容についても掲載いたしました。会員の総意として大切にしてきた岩手の復興教育の推進状況を確かめたいと考えたためです。

これまで、「会報」及び会誌「北奥」、全連小「時報」等の発行につきましても、多くの会員の皆様にご執筆をいただき、令和元年度の足跡を残すことができました。心より感謝申し上げます。

新年度は、新学習指導要領実施の年です。子どもたちの笑顔と輝く未来を願い、大切なものを引き継ぎながら、前へと歩んでいきたいと思えます。

（担当 石橋多賀子）